

磐城水産新報

毎月十日、廿日、卅日発行
定価 一ヶ月三圓
半年十圓
一年二十圓
廣告料 十二字一圓
行五十圓
発行所 福島縣小名濱町
印刷所 伊藤 隆次
磐城水産新報社

變調なる本年 盛夏の天候

觀天望氣師

例年海水浴客を見當にバラは皆少量にして殊に新潟山平年より旺盛となりて流速ノックを開き酷暑を想像して形方面は百耗余も少く秋田を疾め水温を低めて鯉漁其水小屋を開業し照り込みを降日数は他は十五日乃他夏漁に重大なる影響も與豫想して、西瓜の豊作を徹至廿日位に對し僅に七日でへた、

笑む農家もあつたが是に反あつた、其れ故に當地方が由來此の高氣厭に依て海陸して、本年夏の如くに照り曇雨で詫ち居るに反し水共に受くる打撃は甚大なる込みもせず暑さも來らず例騒ぎを演じ縣下でも耶麻郡が故に追て稿を新にして記年と趣きを異にした夏であは田が龜裂した等と虚偽の述する事にする。

概客關東北及北海道方面の一般に少く殊に青森地方は狀況を叙述すれば平均温度一ヶ月僅に二耗であつた。は七八月共に青森以南關東雨天日数は一般に少くも關地方は平年より僅に低く新東地方のみは梅雨模様の爲濁秋田方面が反對に高く北の雨量が平年より少い割に海道より樺太方面は特に高却て日数は多く有つた。降水量は七月にては宮古上風であるに本年は冷涼なるり茨城栃木群馬埼玉の各縣東或は北東風が七八月共には平年より二三耗乃至九終始した。十耗位多く又其日數も三四依て當地以南は曇雨續き日位多し是に反し他の地方で、天を恨んで居るに裏日

銘酒 清水屋

清 水 正 宗 釀 造 元
小名濱 (電話六番)

社告

相馬郡及び双葉郡へ支局開設
支局長募集す
但し在住者たる事
本人來談
磐城水産新報社

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 醫學士 高久 羽
藥局長 藥劑士 赤竹 菊雄
診察科目 內科、小兒科、婦人科、外科、皮膚科、耳鼻喉科、花柳病科、性病科、レントゲン科

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店

電話九番一三九番

水産と人物

線ニ立ち活躍するもの君の産業開發の試験台として活躍振り……
勳陶を受けざるはなく……
君の責任たる負ふ處實に深筆者をして、露骨に云はし大と云ふべきなり……
今や將に一般資本家も海、立場なれば君の可、不可は少年教育より青年教育と廻に研究もし且つ興味も持ち、一會社の盛衰已にと、まらるる念は君の責任たる會つ、ある時本會社の隆昌とす引ては小名濱の昌衰……水産界の前途にも大なる衝動を與ふる重大なる、立場なり……
緻密明晰なる、頭、處亦大なればなり……
を與ふる重大なる、立場なり……
人として、密業界の人としし最近最近東洋捕鯨と特約な、的の覺悟を持ち一大發奮ありし、我々の期待に反するなし晝夜兼行にて罐詰製造肥らん事を切言して擱筆す。
を堅く信すると共に、水料製造に戦争の如き緊張せ

大平自動車部

泉、小名濱間 乗合自動車
泉驛前 主大平芳春

小名濱水産株式會社

支人配 平野直保

上田科外醫院

△外科一般 △X光線科
平町南町電話二二九番

木村科外醫院

内臓外科 專門
花柳病科
平町立町 (電三〇九番)

中之作鐵工場

東京池貝鐵工所 特約代理店
東京日本鐵工所
主 吉田正雄
福島縣石城郡江名町 電九番四一四番